

第16回 大和北道路有識者委員会

議 事 要 旨

1. 日 時 平成15年9月29日（月）14：00～16：30

2. 場 所 春日野荘 2階「飛鳥」

3. 出席者

委員長	近畿大学経営学部商学科	教授	斎藤 峻彦
委員	京都大学大学院工学研究科	教授	飯田 恭敬
	京都大学大学院工学研究科	教授	小林 潔司
	奈良女子大学	名誉教授	近藤 公夫
	(財)元興寺文化財研究所	所長	坪井 清足
	神戸大学大学院法学研究科	教授	山下 淳

(五十音順)

4. 議 事

①第15回有識者委員会議事要旨の確認を行いました。

○第15回有識者委員会の議事要旨

②大和北道路検討のための評価の視点について事務局が説明しました。

○大和北道路検討のための評価の視点について（案）

上記に関して次のような補足説明がありました。

- ・委員から「評価の視点」の考え方及び「具体的指標」がねらいとしている効果の内容について説明。

③大和北道路の検討評価について事務局が説明しました。

○大和北道路（京奈道路～西名阪道）の検討評価（案）

上記に関して次のような議論がありました。

- ・整備効果を数値化して総合的に評価した場合、中央エリア①が優位である。
- ・費用便益比は、配慮事項に整理されているが総合的な指標であり、費用便益比が2以上ある中央エリア①は魅力的な案である。西側エリアの高架案は他の案よりも高いが、支障物件数が多く遅延要因に伴うコスト発生の可能性があることに留意すべきである。
- ・主要眺望点からの眺望において、中央エリア②の高架は高円山から西方向に見え、東側エリアとともに奈良の景観に影響を与える。中央エリア①の地下＋高架案は景観への影響が他の案より比較的小さい。
- ・世界遺産の観点から、西側エリアは緩衝地帯である松林苑や佐紀盾列古墳群などへの影響、東側エリアは春日山原始林への影響が懸念される。中央エリア①は、緩衝地帯と歴史的環境調整区域の境界を通過する案となっており優

位。ただし、24号高架案は景観や平城宮跡に最も接近する案であることから除外すべきであろう。

- ・地下水検討委員会のシミュレーション結果は、奈良文化財研究所の30年にわたる観測結果と符合している。
- ・住居系用途地域の通過延長、移転が必要となる建物の数、IC付近の土地利用状況等を総合的に見ると、生活者に劇的な変化を与えないという視点から、全区間高架案よりも地下＋高架案が、またエリア間では中央エリア¹が優位と考える。

④提言（案）（Ⅰ～Ⅳ）について斎藤委員長が説明しました。

○大和北道路有識者委員会 提言（案）

- Ⅰ 本委員会の設置目的とPIプロセスに即した審議の経過
- Ⅱ PIプロセスで得た人々の意見や要望
- Ⅲ 大和北道路のルート・構造案と評価の視点
- Ⅳ 文化財の保護、地下水に与える影響、景観への配慮等に関する本委員会の基本的な考え方
- Ⅴ 大和北道路のルート・構造に関する本委員会の検討と総合評価（目次のみ）
- Ⅵ 大和北道路の計画化に向けての本委員会の推奨案（目次のみ）

⑤大和北道路ルート案に係る都市計画事業について奈良県が説明しました。

○大和北道路ルート案に係る都市計画事業

5. その他

○地下水検討委員会報告書の補足資料

- ・地下水検討委員会座長の京都大学大学院教授大西有三氏が委員に諮り取りまとめられた資料を大和北道路有識者委員会へ提供頂いたことを紹介。

○次回委員会について

次回第17回委員会は10月3日に開催し、提言についてとりまとめを行う予定。

以 上